

巻頭言 世界子ども水フォーラム・フォローアップ in 東京 2011 に参加して

水には（１）資源としての価値（２）日常生活の中で上流の人たちと下流の人たちとの水をめぐるつながりといった社会的価値（３）鴨長明が方丈記で述べているように、水をめぐる心象風景といった精神的な価値があります。特に（１）の資源としての水を考えますと、水は太陽により蒸留され、雨として不断に供給される循環性の非枯渇性資源です。しかしながら雨水として供給される水は極めて地域的な資源であります。中東の国では年間降水量が100mm程度またはそれ以下ですが、日本では1,800mmほどあります。「湯水のごとく使う」という表現がありますが、たぶん日本と砂漠の国とではその意味はまったく異なるものと思います。また、水は代替不可能な最も重要な資源であり、生物生存の基盤でもあります。水に代わる資源はありません。

20世紀、私たちは民族の相違、宗教の相違、資源を求めて等の理由から戦争をしてきました。大変悲観的な予測として、21世紀は水と食料を求めた戦争が起こるのではないかと心配しています。なぜなら、人口の増加や生活レベルの向上は必然的に水の需要を増大させる要因になるからです。

さて、このような重要な水について、今後水とどのようにかかわっていくか、水とかがわってきた文化、伝統をどのように継承すべきか等について、未来を担う多くの若者が考え世界に発信するということが大変重要なことであり、他の6名の実行委員と一緒に参加させていただきました。会議は全国の中学、高校生に日ごろ、水に関して行っている行動を、あらかじめ作文に書いていただき、その内容から32名の生徒を選考し、2泊3日のスケジュールで代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターで8月2、3、4日に開催されました。会議の目的は来年マルセイユで開催される世界水会議に参加していただく生徒さんの選考です。

会議の進め方ですが、まず以下の5つの分科会にそれぞれ6、7名ずつ配属され、それぞれのテーマについて生徒さんたちでの話し合いが行われました。

- 第1分科会 : 水による災害(洪水や津波、土砂災害等)
- 第2分科会 : 川での体験活動
- 第3分科会 : 水と自然環境の保全・復元・再生
- 第4分科会 : 生活や産業に必要な水
- 第5分科会 : 水の歴史や文化

各分科会には大学生がファシリテーター、及び記録係として参加し、議論の進め方等の指導を行ってくれました。私たち7名の実行委員はその討議の様態を観察し、積極的に議論に参加しているか、きちんと自分の意見を述べているか、人の意見を聴いているか等の視点からまず評価しました。

最終日の午前中に最終発表会が行われ、各分科会が工夫を凝らした特色のある発表を行いました。寸劇形式、テレビのクイズ形式等、限られた時間と資材の中で参加者のみなさんはよく調べ、きちんと自分たちの意見をまとめ、頑張って発表してくれました。寸劇形式の発表などは私には全く想定外の方法であり、若い人の柔軟な発想に頭が下がった次第です。特に私の評価の高かった分科会は自分たちの住んでいる地域に係る伝統や風習などを取り込んだ内容の発表でした。それぞれの発表に対し、異なる分科会の生徒さん達から積極的な質問が出たことは大変素晴らしいことでした。人の意見に耳を傾け、そして疑問や異なる考えを表明するのは大事なことです。私の海外経験からも、日本は外国人から silent delegation (静かな代表団) とかつては揶揄されていました。



審査をする立場からは、みなさんの熱気が十分に伝わってきたのですが、準備のための時間が足りなかったこともあります。メモをただ読むという人が多く、自らの意見を皆さんに理解していただくという態度に欠けていた気がします。今回、選ばれた一人はこの点では、満点ともいえる発表ぶりでした。

最後選考投票ですが、私たち実行委員ばかりでなく、同じ世代の人たちからの視点も大切にするため、自己推薦も含め生徒さんたちも投票し、上位の6人が選ばれました。最終的に選考された6人は来年マルセイユで開かれる世界水会議に参加することになります。

惜しくも選に漏れた人たちと、選ばれた人たちとの差は紙一重です。今回の2泊3日の合宿は北海道から沖縄までの全国からの生徒さんが集合して行われました。先に述べたように、あくまでもフランス派遣の生徒さん達の選考が今回の目的でしたが、生徒さんたちにとってはフランスに派遣されるよりもっと大きなものを得たと思います。それは普段では経験できない異なる地方の人たちとの交流です。水に関心を持つという志を同じくする全国の人と友達になれたことです。今後もこの志を忘れず、今回知り合った仲間とお互いに切磋琢磨して、さらに仲間を広げ、広い意味での Good Water Practice が我が国でさらに普及することを期待しております。

世界子ども水フォーラム・フォローアップ in
東京 2011 実行委員会 実行委員長
きたの まさる
北野 大 (明治大学理工学部教授)